

組織と材質研究会 2019 秋季シンポジウム開催報告

組織と材質研究会 2019 秋季シンポジウム企画担当

東京農工大学大学院農学研究院 半 智史

2019 年 11 月 24 日（日）に、組織と材質研究会 2019 秋季シンポジウムを東京農工大学府中キャンパスにおいて開催しました。今回のテーマは、「形成層細胞の分裂と木部細胞の分化からみる年輪形成メカニズム」として 4 名の講師の方をお招きし、「樹木年輪」研究会との合同シンポジウムとして開催しました。各方面から 64 名の参加を得ました。

初めに、東京農工大学の船田 良氏から、年輪形成と形成層活動についての話題をご紹介いただきました。形成層の定義の話題から始まり、気温や降水が形成層活動に与える影響について、局所的加温処理などの実験的な研究成果を中心にお話しされました。続いて、宮崎大学の雉子谷佳男氏は、年輪形成と植物ホルモンについて講演されました。形成層活動において特に重要であると考えられているオーキシンを中心として、様々な植物ホルモンの定量についての研究成果をご紹介されました。さらに、愛媛大学の鍋嶋絵里氏は、年輪形成の長期変動と季節変化についてお話しされました。ミズナラの年輪形成の長期変動をモデルにより抽出した研究成果や年輪形成における光合成産物と貯蔵物質の利用の季節変化についての研究成果について講演されました。最後に、森林総研林木育種センターの武津英太郎氏からは、環境および遺伝が年輪形成に与える影響について紹介いただきました。カラマツの形成層活動期間や晩材形成に環境および遺伝的要因が与える影響を中心とした研究成果についてお話しされました。

今回は、年輪形成の場である形成層および分化中木部で何が起きているのかを改めて整理する機会としてシンポジウムを企画しましたが、組織と材質研究会と「樹木年輪」研究会の両研究会メンバーにより、非常に活発な議論が行われました。23 日（土）から開催された「樹木年輪」研究会を含め、樹木の年輪形成について深く考える 2 日間となりました。このシンポジウムを通じて、両研究会を横断するような研究がより発展するきっかけとなることを期待しております。



写真：シンポジウム会場風景。各方面から多くの参加者を得ることができた。